



TITLE:

シジミチョウの一種(チョウ目, ヒメシジミチョウ亜科)の海岸での塩分補給

AUTHOR(S):

久保田, 信

---

CITATION:

久保田, 信. シジミチョウの一種(チョウ目, ヒメシジミチョウ亜科)の海岸での塩分補給. KINOKUNI 2016, 89: 15-16

ISSUE DATE:

2016-07-26

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/216291>

RIGHT:

発行元の許可を得て登録しています.

# シジミチョウの一種（チョウ目、ヒメシジミチョウ亜科）の海岸での塩分補給

Supply of salt by a hairstreak (Lepidoptera, Polyommatae) at a coast

久保田 信

これまで和歌山県白浜町に所在する京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所“北浜”や瀬戸漁港で、モンキアゲハ（久保田, 2011a）、セセリチョウの一種（久保田, 2011b）、アオスジアゲハ（久保田, 2012a, b, 2015）、タテハチョウ科の一種（久保田, 2015）の吸水行動の記録をした。今回、シジミチョウの一種でこの行動が2箇所ですべて初めて観察されたので報告する。

和歌山県白浜町に所在する瀬戸臨海実験所“北浜”の船着き場のすぐ両脇（東西方向）の磯浜で、2015年11月16日10時40分頃から10分間、潮がやや引いている時、潮上帯や潮間帯の砂浜や潮間帯から突き出している岩場（図1）に、ヤマトシジミに類似したシジミチョウの一種がそれぞれの場所で複数回ずつ着底し、恐らく吸水した。砂浜の窪んだ箇所ですべて吸水の時に、転がり落ちるといった滑稽な場面も見られた。

観察の途中で撮影用のデジカメを取りに研究室へもどり、その後も同じ地点を数度見回り、“北浜”全体（直線距離で約400m）を往復し、全体で約1時間の調査を実施したが、シジミチョウの一種はいなくなっていた。

今回の1時間程の調査中、アサギマダラの3頭が海岸を飛翔した。その内の1頭は砂浜の満潮線の上空約1mを50mほど低空飛行した。しかし、いずれの個体も砂浜や岩上に着地することはなかった。

この日はたいへん穏やかで暖かい日だったので、午後3時頃から約30分間、午前中よりもさらに潮の引いた“北浜”全体を往復して再び調査したが、シジミチョウなどの姿はなかった。

続いて、和歌山県白浜町に所在する瀬戸漁港でもコンクリート製の岸壁で吸水するヤマトシジミに類似したシジミチョウの一種が、2015年11月18日10時頃から少なくとも3分間観察された。この日の早朝にここで漁網を取り扱っていたので塩気を含んで湿っており、なめてみるとやはりそうであった。



図1 シジミチョウの一種の和歌山県白浜町京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”での吸水場所（←）

## 引用文献

久保田 信. 2011a. モンキアゲハ（チョウ目、アゲハチョウ科）の塩分補給. KINOKUNI, (79) : 15.

久保田 信. 2011b. セセリチョウの一種（チョウ目、セセリチョウ亜科）の塩分補給.

KINOKUNI, (80) : 15.

久保田 信. 2012a. アオスジアゲハ（チョウ目、アゲハチョウ科）の塩分補給.

KINOKUNI, (81) : 12.

久保田 信. 2012b. アオスジアゲハ (チョウ目, アゲハチョウ科) の塩分補給を再度確認.

KINOKUNI, (82) : 14.

久保田 信. 2015. タテハチョウ科の一種の塩分補給. くろしお, (54)

久保田 信. 2015. アオスジアゲハとセセリチョウの 1 種 (チョウ目) 塩分補給 (2015年) .

KINOKUNI, (88) : 19

(くぼた しん 〒649-2211 西牟婁郡白浜町臨海459

京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所)

## 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”で 過去6年間で最も早く出現したシロヘリハンミョウ (ハンミョウ科)

Earliest appearance of *Cicindela* (*Callytron*) *yuasai yuasai* Nakane, 1955 (*Cicindelidae*) at a  
“Kitahama” beach of the Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University, at Shirahama Town,  
Wakayama Prefecture, Japan during these six years

久保田 信

和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所の“北浜”では、過去4年間では決まって6月になると、海岸性のシロヘリハンミョウが、1日当たり、1-2頭初出現した(久保田, 2015a, b)。ただし、調査を開始した5年前の2011年には、7月1日であり、過去で最も遅い初出現日であった(久保田, 2015a)。直線距離で長さ400mほどの当該海岸で、ほぼ毎日、1回、年間を通してシロヘリハンミョウの出現頭数について調べているが、今回も過去4年間と同様に6月に出現したので記録する。

2016年の初出現日：6月2日。この記録は今迄で一番時期が早く、頭数も最多の4頭であった。これまでは昨年(2015)の6月7日が最も早かったので、それを5日更新した。今後の動向を継続調査したい。

久保田 信. 2015a. 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”に出現するシロヘリハンミョウ (ハンミョウ科). KINOKUNI, (87) : 20.

久保田 信. 2015b. 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”に出現するシロヘリハンミョウ (ハンミョウ科) の出現期間. KINOKUNI, (88) : 17.

(くぼた しん 〒649-2211 西牟婁郡白浜町臨海459

京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所)